

炎 天

大橋千佳子

AIが猛暑を告げている今朝は赤い水筒に麦茶を入れる
ヘルメットの下のほっぺを赤らませ36℃を少女は帰る

炎天下緑の波を倒しゆくシルバーさんの斜め横隊

除草後の丘に一羽のオスの雉往きつ戻りつ一声もなく

雉一羽大樹の下の叢に在りし我が巢をただ捜しおり

真昼日を一人受け止め咲き誇るオレンジ色のマリーゴールド

コニシキソウ野草図鑑で確かめて名を呼びながらなおむしり取る

蚊の飛べる陽気が庭に戻り来たつ懐かしむモスキート音

涼やかな美人画並ぶ狭間にて槐多の自画像ガラス硬し

屏風絵にたたずむ壮年業平は日本男児五等身なる